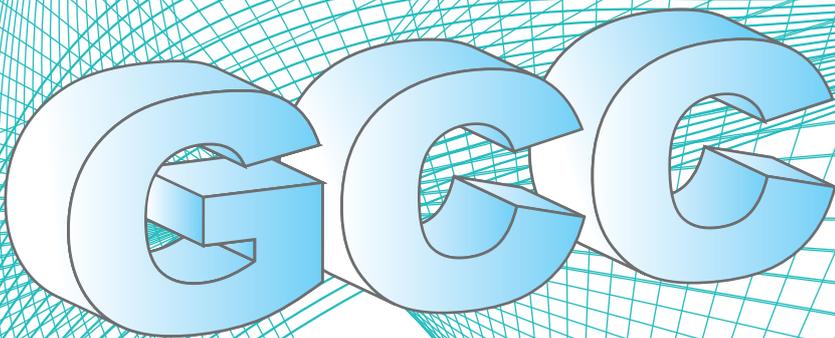


中部グラフィックコミュニケーションズ工業組合会報



Vol 137

Graphic Communications Chubu industry association

[Summer]

夏

発行所 中部グラフィックコミュニケーションズ工業組合
名古屋市中区栄1丁目20番地12号 愛知県印刷会館内1階
TEL052-962-5771 (印刷組合共通)
編集人 中部グラフィックコミュニケーションズ工業組合広報委員会



書店での書籍売上げが25%伸びた例もある。目指すターゲットが同じなら異業種とも連携し、消費者目線の情報発信ビジネスを追求すべきだ」と話した。

が、一方で出版物などを電子化する際の複数あるフォーマットの互換性がないため、例えばXPDF形式で制作した電子文書はどっとブック形式の閲覧ソフトを搭載した端末では見ることができないといった課題があり、電流協は交換フォーマットの構築に取り組んでいる、と説明。「まずは基盤整備が先決。その上でどんなコンテンツを提供できるか、各社で競争していけばいい」と述べた。そのうえで、「印刷市場と電子出版市場は決して相容れないものではない。新刊本の内容の一部を無料でネット配信したことで、



性を持つている拡大する可能性を持つている

電子出版関連
セミナー開催

▼クロスメディア時代の印刷の役割と電流協の活動

大日本印刷電子出版ソリューション本部
池田敬二氏

を務める岡山氏は「出版市場が縮小する中、細かい文字が読みづらい高齢者や視覚障害者、日本語を話しても読めない在日外国人は年々増えている」と指摘。電子出版の文字情報に映像や音声を加えた「ユニバーサルデザイン出版」に取り組む重要性を強調した。

そして、「さまざまな情報を単にメディア化するだけなら素人でもできる。これからの出版、印刷業界に問われるのは、情報をより付加価値の高いものにしていく力であり、ここに新たな市場がある。情報媒体の多様化をチャンスと捉え、社会貢献的な見地から、関わる人すべてがウィン（win）になるビジネスを構築していただきたい」と訴えた。

▼アクセシビリティ（使いやすさ）を考慮したユニバーサル出版の可能性

日立コンサルティンググローバル ITサービス&ソリューション本部
岡山将也氏

音声読み上げを可能にする電子出版の環境整備と普及を目指すTTS推進協議会の事務局長






もっと繋がる。





x m f で時空を超えて。

クライアントの「心」をつかみ、ビジネスを引き寄せ、会社を「芯」から強くする。

XMFが備えているのは、工程を「変化させる」のではなく「進化させていく力」。顧客との「信頼の距離」を縮め、会社を強くしていく力です。日本固有の入稿形態や、修正の厳しさに軽々と応えられるのは、日本のニーズを熟知した日本のメーカーがつくる、日本の印刷会社のためのワークフローシステム『XMF』ただ一つ。富士フィルムは、そう確信しています。

次世代ハイブリッドワークフロー
FUJIFILM WORKFLOW



【XMF Remote】
インターネット経由で24時間シームレスな入稿形態を確立できる最新・最強のWebポータル

【XMF Complete】
高度な面付け機能を装備しデジタルプレスとのハイブリッド接続により自在の戦略性を発揮



富士フィルム グラフィックシステムズ株式会社 中部支社 〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目12番12号 白川第二ビル別館 052(201)8171 ホームページ <http://ffgs.fujifilm.co.jp>

■技術委員会報告 新人研修セミナー

昨年に引き続き当組合では、7月30日、8月27日の2回に分けて新人セミナーを開催させていただきました。

このセミナーは、「業界経験三年未満の新人」を対象にWEB、DTPに関する基礎講習を実施し、組合員企業の技術の底上げを目的として開催されました。開催両日とも予定人数を超え、ご応募をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。終了後のアンケートで「もっと聞きたい」「次回も期待する」というお言葉、充実した内容だったとの評価を多数いただいたセミナーの内容について、誌面の許す限りお伝えしたいと思います。

Webセミナー（7月30日）

- ・第一部 Web制作ニーズに応えるための基礎知識
 - ・第二部 HTML5・CSS3基礎知識
- DTPセミナー（8月27日）
- ・第一部 DTP・電子書籍基礎知識
 - ・第二部 DTP制作を効率化するスク립ト・ツール基礎知識

1日目 第一部

Web制作ニーズに応えるための基礎知識

講師：竹田高輝氏

株式会社エスプロ代表取締役

名古屋市中区丸の内3丁目20番5号オアシス日向304
http://www.ispro.co.jp

竹田氏が代表を務める株式会社エスプロは、主にWebコンテンツやケータイコンテンツの企画から運営まで全般的に手がける。いわゆるWeb業界に従事されています。

昔前まで、このWeb業界と私たちの印刷業界との距離感はかなりありましたが、現在では皆さんも周知の通り、隣り合わせ、もしくは重なり合う部分が多く、「コンテンツの制作」という面では同じ土俵にいます。



私たちには、長年培った印刷に関する物産の知識は十分ありますが、このWebになる、数十年の経験と実績に裏打ちされた指導・教育ができません。また技術が目まぐるしく変化する分野であることから「実際どうなんだろう?」「本当この進め方でいいのだろうか?」「新しい情報についていけない!」などの疑問や不安に思う声をよく耳にします。時には今までの概念、考え方がネックになって思うように進まないというようなジレンマを抱えておられる組合員企業も少なくないと思います。

技術委員会では、この問題を解決していくためには、私たちとは全く違う地点からビジネスをスタートし、今や融合しつつあるWeb業界の考え方や進め方のお話を直接聞くことが、私たちの「今まで」と「これから」を考えるよい機会であると考え、竹田氏にセミナー講師をお願いした次第です。

今回は、新人を対象ということで、例えば「Webサイトを作りたい」というオーダーがあった場合に、どのように進めていけばいいのか、何に注意する必要があるのか、という基礎部分について順を追って解説していただきました。

▼社会のニーズは、常に変化する

私たちが制作したコンテンツは、印刷物からスマートフォン、パソコン、ネット、ケータイ、スマートフォンなどのインフラの普及とそれに伴うユーザーニーズの変化に対応してきました。

「変化するニーズに応えるためには...?」という課題の解決には、激しく変化していく中で、本質を見抜くことが重要。その手法について、実作業と照らし合わせてお話ししていただきました。

▼お客様「ホームページ作ってほしいんだけど」
お客様からいただくオーダーのほとんどは、明確な指示がありません。

これは企画・デザインから行う印刷物でも同じですが、このような漠然とした要求に対して、まず行うことは、「誰が」「どんなときに」「どこで」「何のために」といった情報をお客様から聞き出し、一緒に考え、提案することが重要です。例えば店舗紹介や商材の紹介を行う場合を考えると、伝えたい内容を表面的な事だけでなく、深く理解して、現状の紹介方法の良い点やウィークポイント、同業他社の見せ方などを研究するといったコンサルティングに近い領域の作業を行います。

▼受注時のポイント

なぜそこまで突っ込んだ作業を行う必要があるのかという理由は、Webの仕事が印刷物のように初校、再校、責了、校了という具合にある時点で手離れするものではなく、いつでも変更できるという利便性を持っているが故に、印刷物の時には直さなかった（諦めた）ちょっとしたことも「直したい」とお客様が思ってしまうので、そのたびに修正が発生する可能性がある、というように言ってみれば終わりが明確ではない作業だからです。この延々と続くリスクを排除するためにも、受注者側から提案をして、お客様の意識や評価のコントロールや先回りした提案をするなどして、お客様に安心して任せていただけるようにする必要があります。また、リリースされてからの変更作業（メンテナンス）を前提として、その作業を容易に安全にできるようにすることも考えておくことも重要です。

▼押さえておきたいキーワードとトレンド

このように、「ホームページ作ってほしいんだけど」という単純な問いかけに、プロとして何を考えなければいけないか、といった基礎部分についてお話しいただいた後、サーバや回線、ドメインなどWebの仕事をするために知っておかなければいけないキーワードについて解説をいただき、最近の事情として、CMS（コンテンツマネジメントシステム）の利用や、コンテンツを動的に見せるためのFlashやJavaScriptの活用事例、その他オープンソースの活用を紹介していただきました。

また、Webの仕事はリリース後が重要であるということで、アクセス解析の方法や、アクセスアップを行うための方法（リスティング広告、アフィリエイト広告）などを実際のサイトを見ながら解説していただきました。

▼まとめ

最後に竹田氏から「Webの習得という範囲がものすごく広い。一人が全ての技術情報を追いかけることは出来ない、それぞれの得意分野を活かして内部や外部と協力し、補い合うことが重要。様々な技術や手法がありますが、自己満足に陥ることなく、お客様のニーズにまずは応えるということを忘れないように欲しい」と、組合員企業の新人スタッフがWebに取り組む場合の心得としてまとめいただきました。

●参加者の声

・自分のようなWEB初心者にも、すごくわかりやすい内容でした。用語の説明から業界、経験者の目線のアドバイスもあり、WEB制作にチャレンジしてみたいくなりました。

・今まで印刷の事ばかりでWEBの知識があまりありません。今後業界の変化などに追いついていくためにも、自分でも進んで勉強をしていかなければ、と感じました。

HTML5・CSS3 基礎知識

講師：川原正隆氏
株式会社ニューキャスト代表取締役

名古屋市中東区葵一丁目22番8号
http://www.xmindo.jp

HTML5・CSS3をWEB系の最新技術として「勉強しなくてはいけない」というような、どちらかという強迫観念にとらわれている方が多いのではないかと思います。それは、私（川原）もまた同じです。正直なところ「また覚えることが増えるのか…」と思います。また、これらの技術はW3C（WWWで利用される技術の標準化をすすめる団体）が、昨今の状況を考慮してHTML4からの改変を進めており「今まで出来なかったこと（もしくは可能だが複雑な手順が必要だったこと）を世界標準仕様として整理して考えました」ということなので、どちらかという嬉しい話なのです。

▼制作の視点でHTML5を捉える

簡単な例で、HTML5の優位点を述べたいと思います。例えば、Web上にグラフ図を掲載していたとき、その数値が変わるたびに、イラストレーターなどを使ってグラフを修正、それを画像にしてサーバに再度アップロード、というフローがあったとします。これがHTML5で新たに定義された「canvasタグ」の中で、スク립トと数値を使って表現できる」ということは、いちいちフロー系のソフトウェアで画像を作らなくても、HTMLだけで解決できるという利点があります。

これは何が得かということ、HTMLだけで完結するということは文字データだけになりませんので、画像を減らすことができます。サイトが軽量化できるということが挙げられます。これは昨今のスマートフォン普及などを考えると、インターネットの閲覧速度の向上に繋がりますのでユーザーにとって喜ばしいことになりま

す。制作側としても、よく使うタグ、使わないタグが整理されるなどサンプルに書けるようになったことなど、作業効率も向上できるので良いことだと思います。

▼システム開発の視点からみたHTML5

また、業務で使用するアプリケーションが、オフコンなどの専用システムやデスクトップ型のアプリケーションが主流だった時代から、オープンソース系の技術を使ってできるWebアプリケーションへと移行が進みました。それは、ブラウザさえあれば操作が可能であるという優位点があったからなのですが、従来の操作性やローカルデータを扱う機能など、RIA（リッチクライアントアプリケーション）と呼ばれる部分を実現しようとする時にどうしてもブラウザの仕様が大きな壁となって立ちほだかることがありました。それらを回避しなければいけない場合には、例えばAdobe Flashの技術を利用したFLEXAIR、MicrosoftならSilverlightなどで開発することにより、操作性の要求を満たすことができましたが、動作速度の面や、クライアント側にインストールしなければならないなど、メリットとデメリットが存在します。このような状況において、HTML5では、前述以外にもいくつかのAPIが提供されることになっているので、ブラウザで動作するWebアプリケーションの幅（可能性）は拡がりました。

▼ブラウザの進化によって浸透してきたCSS3

CSS3についても同じです。実際に使われているサイトを見ていただきましたが、わかりやすい例では、従来のHTMLで角丸ボックスを表現するには丸の部分画像化するなどの手法が一般的でしたが、CSS3ではそのスタイルを定義することで表現できます。また、影を付けるといった処理もスタイルで調整ができる、ということも、制作作業の工数が削減でき、画像を使わないことで高速化、軽量化も可能になります。他にもグラデーション効果など様々

な見た目をスタイルだけで変更できるということとは、デザイナーにとっては大きな利点となっており、海外のサイトでは早くから積極的に取り入れられています。

▼何でもできるようになるわけではない

セミナー会場で参加者のみなさんと各自が持っているスマートフォンとあるサイトを見ていただき、その中でHTML5で新たに追加されたタグの属性「<input type="email">」を例にとり、「Phone&Android端末に搭載されているブラウザで見え方がどう違うかということを実験していただきました。本来この属性値は、emailと設定することで、データの送信時にメールアドレスかどうかチェックをしてくれる、というのがありますが、そんなことよりも皆さんに見ていただきたかったのは、端末で見え方が違う、ブラウザによって見え方が違うということですね。

iPhoneのメニューキーパッドがメールアドレス入力用に「@」が出てくる場合もあります。Androidのように出てこないものもある。これはOSやAndroidが劣っていると、AppleよりGoogleが…ということではなく、作り手が気にしなければいけないポイントがどこかということですね。

各ベンダーが開発するブラウザの仕様は、標準仕様を構想的に視野にいれているにしても、まったく一緒になることはありません（もしそうになったらそれぞれの特長が無くなるわけですから）。そのような中で、今もこれから先もその仕様がどの範囲で生きていくかを確認し、ユーザーにとって何が一番ベストなのかを考えることが重要です。

▼実際にやってみるには

実際にHTML5・CSS3を使ってどう作るかといった方法は、いろいろなサイトで解説されています。これらは特別なソフトウェアが必要ということではないので、誰でも試すことができます。また、複雑なコードを自動生成してくれるサイトや、制作を支援するツールも

数多く存在しますので、これらを利用して効率よく作業することも可能です。

ただ、第一部の竹田社長のお話にもあったように、新しい機能や、派手な機能など、見せ方に意識がいつまうと、お客様の本当のニーズが見えなくなることがありますので、くれぐれもやりすぎには注意が必要です。

●参加者の声

HTML5・CSS3に興味はありましたが、自分ではなかなか絞り込んだ情報をとらえられなかったので、来て良かったと思いました。お話を聞いて直接作業がしたくなりました。是非個人でPCを持ち寄って、実際作業しながらのセミナーも受けてみたいです。

DTP・電子書籍基礎知識

講師：森裕司氏
有限会社ザッツ 代表取締役

http://study-room.info/id/

InDesignの情報サイトとして有名な「InDesignの勉強部屋」の運営や、地元名古屋で定期開催されている「DTPの勉強部屋」の主催、7月に行われたパブリッシングフェアではAdobeブースにて電子書籍関連のセミナーをされるなど精力的に活動をされている有限会社ザッツの森裕司氏（デザイナー）を講師にお迎えし、DTPの基礎と電子書籍についてお話をさせていただきました。

▼DTP基礎

新人向けということもあり、Adobe製品体系の説明、DTPにまつわる



それぞれのソフトウェア (Illustrator、Photoshop、InDesign) が何をやるものなのかといった基本的な説明を最初にしていただきました。Illustratorはペー ジ物を制作していることがありますが、Illustratorは主に部品作りに使用し、ペー ジレイアウトはInDesignで作成した方が効率的に作業できるということを強調しておられました。また、PDFワークフローが確立する中、これからはEpubsではなく、ネイティブデータであるAやPPSD、PDFを使いましょう、といったことの理由 (透明効果との兼ね合い) や、フォント形式や文字コードについて学習しておくことの大切さ、バージョン違いに気を配ることなど、DTPをする上での基本的なことを教えていただきました。このようなお話は、かなり初歩的なことと思いますが、参加者の中には、再確認できたという声もあり、常に最新の情報を入れておくということも大切ですが、同時に基本的な部分でも話を聞いてみることは重要なことだと思いました。

▼便利な機能の紹介

この後、InDesignの操作デモをしながら、DTPの現場で使える機能を紹介。その中からいくつかピックアップしてみました。

・スタイル機能全般

InDesignにはスタイル機能がついており、この機能をうまく使ってデータを作成、修正しやすいように設計することが重要

・先頭文字スタイル

先頭にある文字に対して、特定の文字スタイルを自動で適用するための機能
例えば、先頭に数字がくるような文章で、その数字の書体を変えたいという場合、通常は、その文字をオペレーターが目で確認、一文字選択して、文字スタイルを変更するといった単純作業になるが、こ

の機能を使えば、その行にスタイルを適用するだけで意図した結果が得られる。文字が変更した場合にも自動で適用される。

・正規表現置換

通常の1対1の置換 (Aを「B」に変える) ではできないような「Aという文字が含まれるときだけ」といった条件を含めることができる正規表現。古くからある言語のひとつ。InDesignでは条件にマッチしたときに文字スタイル・段落スタイルを同時に設定し置換することができます。

・プリフライト

ドキュメント内にオーバーセットテキスト (テキストフレームからあふれた文字) があるかどうか、線の太さが指定した数値以下になっていないかなど、印刷時のトラブルを防ぐためのチェック機能。

上記以外にも、CS5からの新機能なども紹介していただき、新人以外の参加者からも再確認できたとの声をいただきました。森氏は最後に「他にも沢山の機能が揃っているの、これらを試してみてください、是非DTP制作に役立てて欲しい」ということで第一部を締めくくりました。

▼電子書籍編

森氏は前述の通りAdobe InDesignを使った電子書籍制作フローをパブリッシングフェアを始め、ご自身のサイトなどでもその制作方法を紹介されており、今回は気になる最新事情と合わせてお話ししていただきました。

まずはじめに、電子書籍を読む端末にどんなものがあるのか——専用リーダー、タブレット、スマートフォンといったいくつかの機種をあげた後、電子書籍がレイアウトによって「アプリケーション型」と「フロー型」の2つに大きく分けられることを示し、順番に解説していただきました。

▼アプリケーション型電子書籍を作る

アプリケーション型とは、コンテンツが各ページで完結する固定レイアウトになるもので、どちらかというと印刷物に近いイメージで見られる場合に用いられます。そのページに納まっていること自体に意味を持っていて、雑誌やマンガを想像すると理解しやすいです。このようなタイプの電子書籍を作るツールとして、Adobe Digital Publishing Suite (以下DPS) を紹介していただきました。DPSは、印刷用データをInDesignで作成していた場合、そのデータをほぼそのまま使うことができるので、InDesignで制作したもののから流用としてはとても有用です。セミナーでは全部を説明していただけた時間が残念ながらありませんでしたので、私が実際に作成してみた報告を交えて補足説明します。

▼準備するもの

Adobe CS5以降をお持ちであれば、無償ツールをAdobeのWebサイトからダウンロードすると、FolioBuilderが使用できるようになり制作環境を準備することができます。作成したデータ (Folioデータ) を配布するにはAdobeとサービス契約 (年間60万円) が必要となりますが、adobe.comでアカウント (登録無料) を取得すれば、1データに限り作成することが可能で、共有設定をすれば他の人にも配布が可能です。

▼作成する

作成方法の詳細は割愛しますが、ドキュメントサイズについて、ひと言触れておきます。最初に説明していただいたように電子書籍を見る端末は沢山の種類があります。それぞれスクリーンサイズが違います。どの端末をターゲットにするかでそのサイズを変更する必要があります。例えば、iPadとGalaxyTab両方に対応したい場合には、厳密に言うと別々のドキュメン

- * Adobe Digital Publishing Suite
<http://www.adobe.com/jp/products/digitalpublishingsuite/>
機能から事例、作成方法、活用方法などが紹介されています。
- * InDesignの勉強部屋
<http://study-room.info/id/>
森裕司氏 (YUJI) の運営するInDesignの情報サイトです。
- * AdobeContentViewer
<http://itunes.apple.com/jp/app/adobe-content-viewer-for-ipad/id389067418?mt=8>
<https://market.android.com/details?id=com.adobe.contentviewer>
- * International Digital Publishing Forum (IDPF/国際電子出版フォーラム)
<http://idpf.org/epub>
電子書籍の標準化団体。EPUBの普及促進を進めています。

モリサワ

高品質な組版を実現する自動組版システム

大量のデータを自動レイアウトでスピード処理。
高品質組版と高生産性を実現。

MDS-B²

— 自動組版システム / モリサワ・ドキュメント・ソリューション —

本社：〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 2-6-25 Tel.06-6649-2151
東京本社：〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-27 Tel.03-3267-1231
<http://www.morisawa.co.jp>

印刷、製版の廃液処理について御相談下さい。/
— 貴事業所の排水の水質検査も致します —

● 定着廃液・古フィルム回収
● 現像廃液他製版廃液回収
● 銀回収電解機のレンタル

● 中部工組指定業者 ● 産廃許可業者 (全国)

アサヒプリテック株式会社

名古屋営業所 / 小牧市大字上末字久治南 2 3 5 0 0568(76)5981
北陸営業所 / 富山県富山市森原 5 5 6 - 1 0764(68)0101
神戸本社 / 神戸市東灘区魚崎浜町 2 1 078(431)2981

住友の伸銅品、アルミニウム
印刷用銅版、亜鉛板

兼岩株式会社

ノースセンター 西春日井郡新川町大字阿原字鴨池188番
電話 (052) 401-0555
本社 名古屋市中区伊勢山二丁目5番9号
電話 (052) 332-0555 代表

造る印刷から創る印刷へ

株式会社 コムテックス

名古屋支店 名古屋市中川区野田1-609
TEL 052-369-1221

フィルム・写真定着・現像液
廃液・スラッジ・PS現像・ダウ液回収

東洋金属株

TEL 0587(93)3399
愛知県丹羽郡扶桑町
大字南山名字名護根 6 0 - 1

トサイズで作成する必要があります。これはスクリーンサイズの縦がiPadは768px、GalaxyTabは600pxという違いがあるから。ただ、この点を意識する必要がなければ端末のメインターゲットを決めて作るということでも良いと思います。私はGalaxyTabは持っていないので、iPadをメインターゲットにして、スマートフォン(XPERIA)を試してみました。XPERIAは横が長いので、両端に隙間ができてしまいました。

▼テストする

FolioBuilder上で作成したデータは、プレビュー機能で確認することができます。acrobat.comのアカウントがある場合には、ブラウザでアクセスし、ログインすると、自分のワークスペースに作成したfolioデータを確認することができます。

▼端末で確認する

iPadにAdobeContentViewer (無料)をiTunesStoreからダウンロードしてインストールしておきます。Android端末の場合GoogleのAndroidMarketと同アプリを検索してインストールしてください。Androidの場合は、ランタイムであるARが入っていないと、ContentViewerの起動時にARのインストールを促されますので、入っていない場合はインストールをしてください。正常に起動したら、アプリがacrobat.comにサインインします。認証される。画面上に自分のfolioデータ(acrobat.comにアップされているもの)が表示されます。これをダウンロードすれば、自分の端末で先ほど作成したfolioを閲覧することができます。



▲AdobeContentViewer



▲ACROBAT.COM

▼配布する

ContentViewerを通して2つ以上のfolioを作成して配布する場合や、アプリケーションとしてパックした状態で配布したい場合には、前述の通りAdobeとの契約が必要となります。今回は、無償でできる範囲で説明したいと思います。配布先になる人のacrobat.comのアカウントを取得し、自分のワークスペースで共有設定します。例えば、私のfolioをBさんにも渡したい場合に、Bさんのアカウント名を教えてもらって共有設定します。そうすると、BさんのiPadにContentViewerを開くと、私のfolioが表示されます。これをダウンロードすればBさんに配布ができたということになります。一度配布した後、データに修正が入り、再度アップした場合には、ContentViewerで更新を促すアラートが出ますので、そのままダウンロードすると、最新のデータが手に入ります。

▼使う方法

ADPSでは、インタラクティブな電子書籍の制作を支援するために、写真のスクリーンショットや画像、動画の埋め込み、オンラインでWebコンテンツを差し込むなどいくつかの機能が提供されています。これらを使うかというのは、そのコンテンツの性質によりです。セミナー中に紹介していただいたゴルフ雑誌で、スイングをコマ送りで見ることが出来るというものがありました。このようなインタラクティブの機能で気をつけたいわけではないのは、最初のインパクトはあるが、それに集中すると、コンテンツそのものの価値を伝えること、本当に言いたかったことが不明瞭になる可能性があります。読者層が広い範囲をターゲットにした場合、その機能がかえって邪魔になる可能性があると感じました。ただ、ゴルフのような趣味の範囲で、さらに詳しく見たいといったニーズがあるものに対しては、価値を高めることができます。

と思うので有効であると感じました。

▼リフロー型電子書籍を作る

リフロー型とは、前述のアプリケーション型で例として挙げた雑誌のように、ページ単位でレイアウトが固定されているのではなく、文章の量によって、ページレイアウトが可変するものを言います。

例えば、書籍やマニュアルのように内容の量や文字の大きさ行間によって、レイアウトが可変である、流れが変わるもの、内容がそのページで完結せず繋がって流れていくもの、ということのリフロー型と呼んでいます。

▼EPUBとは

電子書籍は、どちらかというところのようなタイプのために形式とそれを読むリーダー端末が考えられており、bookやXPDF、mobiなどがあります。EPUBもこのうちのリーダーPDF、国際電子出版フォーラムで仕様を決めています。現在は、シャープのGALAPAGOS(米国内版)もEPUBに乗り換えるようで、いくつかあった形式からEPUB形式へと統合され、リフロー型の電子書籍といえはEPUB形式、となる日が来るかもしれません。私の私見ではありますが、そもそも紙(もしくはDTP)でしかなかった書籍データを、環境(端末)に依存せず、デジタルデータとして残しておくための形式という意味合いもあつたはずなので、メーカー独自、または主導の形式は淘汰される流れにあるような気がします。

現在のEPUBは、3.0の仕様案がほぼ確定に近い状態にあり、縦書きやルビなど日本語書籍に必要な仕様も追加されるようです。私個人としては、電子書籍に縦書きやルビがそれほど必要とは思いませんが、そこまでのクオリティが出せるのであればそれもありがたという程度で捉えています。それは、EPUBの仕様が確定したと

SCREEN Creating a Future in Print

YOUR WISH
IS OUR PRINT ON DEMAND

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン <http://www.mtjn.co.jp>

名古屋支店 TEL:052-218-6400 東京支店 TEL:03-3237-3111
〒460-0003 大阪支店 TEL:06-6268-6600
名古屋市中区錦2丁目14-21 福岡支店 TEL:092-436-7081
円山ニッセイビル

各種印刷製版用機器・資材販売
製版・油性・UV印刷薬品製造販売

ueno **フエノ株式会社**
名古屋営業所
〒464-0855 名古屋市中区千種区千種通り5-8
TEL 052-741-5351 (代)
<http://www.uenocorp.co.jp>

TOYO INK

生活文化創造企業
www.toyoink.co.jp
東洋インキ製造株式会社 中部支社
Tel: 052-979-7451

真のパートナーを得ること。それはあなたのビジネスにとってテクノロジーを超える、かけがえのない財産となるでしょう。

It's time for you AND Kodak

コダック株式会社 <http://www.kodak.co.jp>
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-10 TEL. 052-746-1290

Kodak

しても、その実装を行う各ベンダーが対応しなければ、いくら世界標準であっても再現されないということになるからであり、その領域は制作側としては待つしかない部分だからです。お客様からE PUBは縦書きもルビもできるからよろしく、と言われても、全ての環境で可能ではないということをしつかりとお話しておく必要があります。

▼E PUB 制作

前述でE PUBの可能性を打ち砕くようなことを書きましたが、E PUB形式でデータ制作することや保持しておくことは大賛成です。今はDTPがファイナルデータとなり需要が高まる再利用を意識したデータではないからです。このようなか、今回は、InDesignCS5で作成したデータからのE PUB制作について解説していただきました。その際に重要となるInDesignキキュメントの調整（データの構造化を意識した調整）の実際についてお話いただきました。例えば、同じ意味を持つ見出しが複数のスタイルで出来ていると、それはデータ構造上、違うデータとして扱われてしまいます。このような状態ではE PUBにデータを持って行く際に、とても手間がかかってしまいます。手間がかかるということは、またチェック作業をする必要があります。ここではデータ流用、再利用のメリットがありません。このような状態にならないように最初からE PUBの要件がある場合には、それを考慮した作り込みが必要です。その場合、DTPのエキスパートであっても、全てマルチに出来る人はなかなかないと思いますので、CSSに詳しい人、データの構造化を設計出来る人、そしてDTPが出来る人が協力して制作することも考えておきましょう。

▼まとめ

WEBセミナーの竹田氏もそうでしたが、森氏からも「ADPPSにしてもE PUBにしても、理解するためには試してみたいだけでなく、一番です。実際やってみると、今まで想像でしかなかったもの、想像以外のものが見えてく

ることがありますので是非やってみてください。」ということでした。

●参加者の声

- ・電子書籍をシッカリとみた事はないのですが、読む側としても作る側としてもとても興味がわきました。
- ・E PUBに関して初心者なので参考になりました。早速帰って実践していきたいです。

2日目 第一部

DTP 制作を効率化する ツール・スクリプト基礎知識

講師：川原正隆氏
株式会社ニューキャスト代表取締役

名古屋市中東区葵2丁目22番8号
http://www.xmind.jp

「スクリプトを使ってDTPを効率化しよう」というと、「プログラムはちょっと…」と抵抗感を持つ人が大多数だと思います。また、DTPアプリケーション（例えばInDesign）はメニューやツールパレットが用意されているので、マウスでそれをクリックして、ドラッグして…といった感じで作業ができてしまいます。そこで敢えてプログラムを使ってやってみようという意識にいかないのは確かです。つまりは使わなくてもできてしまう、ということに起因しているのだと思います。



というところは、様々なスクリプトを紹介したところで使ってみるものの、その試みは続かないだろうと思いき、今回は、スクリプトを使った制作効率化のテクニックを説明するのではなく、なぜそれが必要なのか、やるべきなのか、その動機付けになるポイントを理解していただくこと

が一番の目的でした。

DTPの作業は、その作成方法、ハウスルーなどを踏まえて、一応のフローはあるにしても、あいまいな部分も多く持っています。最初に決めたとしてもそれが変更され、さらに新しいルールが積み重なっていき、最終的にはその人でなければ分らないという事態に陥ります。セミナーでは、「悲しい話」として、現場でありそうな制作事故をいくつか挙げました。それは、どれだけ注意して作業していても、例えスーパーDTPマンであっても、いつでもどんなときでも100%完璧な作業ができる人はいません。このような状態では、制作者が安心して安定して作業できる環境にはいつまでたっても到達しません。制作作業とは、どれだけやっても何人が見てもそれでも間違っ可能性がありま。それは人が作るものだから仕方ありません。それでも、この負荷を取り除いていく行動を起こさなければ、いつまでも変わらないということになります。これが効率化に取り組みなければいけないひとつの理由です。また、現状、印刷物を作るだけでは仕事は減る傾向にあります。それも十分承知しているけれども新しいことができない。それにかかる時間がない。であれば効率化によってその時間を作らなければ衰退に身を任せるだけになる。これがもうひとつの理由です。他にも色々ありますが、この二つだけでも十分な動機付けになるのではないのでしょうか。スクリプトというと、自動処理によって時間を削減するもの、という漠然としたイメージがありますが、実はDTPが持つ根本的な問題を解決するきっかけになります。今回は、「コマンドを使うメリット、スクリプトを使うメリット、さらに発展してWeb入稿のメリット」と、3ステップに分けて解説しました。

「コマンドを使うメリット」では、実際の現場でよくありそうな、もう一回同じ作業を行わなければならない場面における優位性、「スクリプトを使うメリット」では、例として制作の出力フローを自動化することで、同じ事故を繰り返さない、ルールを積み上げ式で強化できる方法について、「Web入稿のメリット」では、

すべてのノウハウを節約させ完全な自動化を図る方法について説明しました。これらに共通して言える最大のメリットは、「そのチームを守る」ことです。スクリプトが単なる効率化のためにあるのではなく、フローを固め、チームを守る効果を持つということが基礎編として最も理解していただきたいことでした。

●参加者の声

- ・思ってもみない着眼からのお話でした。詳しく時間をかけてお話が聞きたかったです。
- ・何度か取り組ん出来たりしましたが、これからは新人の育成や仕事の効率化に役立てたいと思います。

▼新人セミナー総評

参加者の皆様、短い時間でしたが、お疲れ様でした。また、アンケートにも丁寧にお答えいただきましたありがとうございます。今回の目標は、「参加者が実際に始めたくなる」ようになってもらうことでした。2日間のどのセッションも、高額な何かが必要ではなく、やってみようと思えばいつでもできる内容はばかりですが、日々の業務に追われてなかなか取り組めないのが実情だと思います。今回アンケート結果でも「もっと話を聞きたい」、「実際にやってみよう」という前向きな感想を多数いただきました。このような気持ちにお応えして、中部GCC組合員企業の技術力の向上につなげていくことが技術委員の役目だと思いましたが、もちろん、前述の「声」以外にも、厳しい指摘もいただいております。今後とも皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

▼実践型セミナーの開催について

セミナーでも申し上げた通り、各自ノートPCを持ち込んで、実践的な演習を行う形式のセミナーを数回に分けて開催することを計画しています。近日中に、まずは開催に対するアンケートをさせていただきますと思いますので、ご協力の程、よろしくお願いたします。

報告・お知らせ Information

▼大会実行委員会からのお知らせ

第59回 GCJ 名古屋大会 (案)

当組合では、来年開催されるGCJ名古屋大会を下記要項で準備中です。詳細がまとまり次第、事務局より改めてご案内いたします。

●開催日

平成24年5月26日 (土)

●開催場所

名古屋東急ホテル
名古屋市中区栄4-6-8 TEL052-251-2411

●大会ゴルフ大会

平成24年5月25日 (金)
東建多度カントリークラブ・名古屋
三重県桑名市多度町古野2692 TEL0594-48-5811

●大会記念講演会

講師 宗次徳二氏 (ココ壱番屋：創業者)

編集後記

突然ひっそりと「編集後記」を開始しました。今回は、新人研修セミナーについて長々と書きましたが、実はまだあと数ページ分の文章がありまして…ブログなどどこかで公開できればと思っております。

前々から、埋め草的にiPhoneやiPad、Androidなどのアプリについて紹介しようと考えておりましたので、一発目は有名な「evernote」について少々。

evernoteは、メモを書き溜めておくことができる、シンプルな操作で使い勝手も良い人気のあるアプリです。

私も実際使っており、取材や打ち合わせなどなど活用しております。データは、今をときめくクラウド上にありまして、PCでも、iPhoneでも、iPadでもAndroidでも同じようにデータを入れたり、編集したりできます。外出先でiPhoneで入力した文章を、会社のPCで修正するなど簡単にできます。

また、6月頃に愛用Macが故障したのですが、データがクラウド上にあるので、復旧など関係なく、非常に助かりました。

Gmailなどもそうですが、いつでもどこでも自分のデータが手に入る、どんどんクラウドサービスを利用して骨抜きになって…ダメな人になっていないか心配です。

(広報委員：川原)

記事を募集しています

本誌「GCC」では、組合各企業の紹介をさせていただいています。紹介したい商品・サービスや、事務所移転、新規店舗展開などありましたら、まずは事務局までお寄せください。

▼福利厚生委員会からのお知らせ

恒例バーベキュー大会開催

恒例の南知多グリーンバレイに於ける「バーベキュー」を催す事となりました。本年度も各テーブルに魚介類を用意いたしまして大いに味覚の秋をお楽しみ頂きたいと企画いたしております。

●開催日時 平成23年10月30日 (日曜日) 午後12時スタート

●開催場所 南知多グリーンバレイ

※詳細は、事務局までお問い合わせください。

▼セミナー報告① (8月20日)

「逆境に打ち克つ、心の知能指数」

講師：ヒューマンダイナミックス・廣瀬公一氏

当組合は8月20日、仕事へのモチベーションを高め、周囲とのコミュニケーションを図る手法を実践形式で学ぶセミナー「逆境に打ち克つ、心の知能指数」を開催、営業や制作の現場で働く組合員企業の社員ら46人が出席した。

はじめに川本嘉博理事長が「市場の急速な変化する中、もはや経営者だけが企業を牽引していく時代ではない。個々の社員が結束し仕事のプランニングを行うことが重要だ。また、こうしたセミナーで様々な会社の社員が集うことは、異なる考え方を学ぶチャンスにもなる。ぜひこの機会を有意義なものにしてほしい」とあいさつ。

人材育成・能力開発のためのトレーニングマネージャーを務める廣瀬氏は「人は人生の中で『自分の心』と最も多く会話をし、無意識に言葉や態度で表している。その『内なる言葉』を自ら分析することが大切である」と説いたのち、「自分と相手は鏡の関係。自分が不機嫌なら相手も不機嫌になる。明るく前向きに接すれば相手も変わる」「良いコミュニケーターは良いリスナーである」などアドバイス。出席者は二人一組に分かれ、様々な切り口から自分の感情を言葉にし、相手の思いを聞き出すトレーニングを実施。時折、笑顔も交えながら対話を弾ませていた。



▼セミナー報告② (8月4日)

デジタル・コンテンツ制作集団をめざして 「電子書籍」各社の取り組み

場所：株式会社モリサワ

路地裏から表通りへ——電子書籍の制作へ乗り出すということは、賃加工の世界から最終商品を生み出す舞台へと踏み出すチャンスである。全国主要都市をテレビ会議で結んで行われた本セミナー、第一部テーマ「業界の電子書籍への取り組みと課題」で小笠原氏(マーケティング部会専門会員・前JAGAT常務理事)が語ったひと言。そのチャンスを掴むためには、最終商品としての使いやすさ、クオリティを優れたものにする努力、さらにプロモーションまでをどう提案するかがポイント。お客様が望んでいるのはDTPではなく、再活用できるデータである。それらをトータルで成功させたものが新しいサービスを切り拓き発展していこうと述べた。

第二部は、モリサワの次期商品「MCマガジン」が紹介された。Adobe社のADPS (Adobe Digital Publishing Suite) と同じく、電子書籍を作るためのツール。読み手を意識した細やかな機能を実装していく予定でIGUSにも出展するとのこと。

第三部は、パネルディスカッションで4社(株式会社双葉写真製版 小林博美氏、株式会社グラフト 宇田川裕孝氏、株式会社ローヤル企画 松浦睦桐氏、株式会社アズワン 榎元孝夫氏)の取り組みが発表された。

KOBUNDOは、真の「ソリューション企業」へ

クライアントのみならず、クライアントが抱えるユーザーの満足度を満たすために。



印刷機材の総合商社
株式会社 光文堂

本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052 (331) 4111 (代)

<http://www.kobundo.co.jp>



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

Next Generation Digital Color Press

新しい価値を創造する bizhub PRESS

プロダクションプリント事業を成功に導くために誕生した新ブランド「bizhub PRESS」。コニカミノルタが培ってきた高度な製品技術力に新たなワークフロー技術を融合した「トータルソリューション」でハイレベルなニーズへの対応はもちろん、新たな価値を創造します。

ワンランク上のデジタルカラープレスが満足度の向上、ビジネス展開の拡充、事業強化へと貢献します。



毎分71枚 (A4ヨコ) フルカラー出力

リアル1200dpiの高解像度出力

最大300g/m²、厚紙両面印刷対応

変わらない美しさを追求した画像安定性

オフセット画質に迫る、高度な画像処理技術

多様なバリエーション、インラインフィニッシング

フルカラーデジタル印刷システム

bizhub PRESS

C7000/C7000P

*写真はC7000Iにオプションを装着したものです。

2010年度グッドデザイン賞受賞



外観デザインだけでなく、利便性や操作性など、ハード・ソフト両面において高い評価をいただき、「2010年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
デジタルイメージング事業部 中部営業部

〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-15 三井住友海上名古屋しらかわビル11F TEL.052-229-4624

デジタル印刷システムの詳しい情報は、インターネットでご覧いただけます。

<http://konicaminolta.jp/pr/odp>

今号は、コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社様のご厚意により、bizhub PRESS C7000/C7000P で印刷していただきました。